

かすみがうら市放射性物質除染作業マニュアル

平成 24 年 1 月 4 日
かすみがうら市放射線対策本部

1. 目的

このマニュアルは、市民の皆様が日常生活を送るうえで、放射性物質に対する不安を解消し、安心して生活するための除染作業を行う際の留意点についてまとめたものです。

2. 除染の流れ

除染作業の大まかな流れを 5 つに区分しました。実際に作業する場合は、「3. 除染作業の進め方」以降を参考にしてください。

- ① 測定 事前測定を行います。
- ② 準備 除染作業に使用する服装や除染した土砂の保管場所を確保します。
- ③ 除染 放射線量の高い場所を除染します。
- ④ 作業後 作業で付着した汚れを取ります。
- ⑤ 再測定 除染後の放射線量を測定します。

3. 除染作業の進め方

現在、身の回りにある放射性物質の多くは放射性セシウムと考えられています。セシウムは土の表面に付着しやすく、雨水が流れる場所やたまり場では、高い放射線量になることが予測されますので、それらを重点的に除染します。

除染のための基本的な手順は次のとおりです。

3-1. 測定

局所的に放射線量の高い場所もあれば、除染作業を行わなくてもよい場所がありますので、敷地内において効率よく行うために、さまざまな場所の放射線量を確認してください。

(1) 放射線量の測定

市では、訪問測定を実施していますので、測定を希望する方は、お申し込みください。

(2) 放射線量の高い場所の把握

局所的な汚染箇所を見つけるには、子どもたちの活動の場では地上 50cm、その他の場所では地上 1m の高さで測定します。

3-2. 準備

(1) 除染作業の服装

肌を露出しないために、マスク、ゴム手袋、ゴム長靴、長袖の服、長ズボン、帽子などを着用します。

(2) 必要機材の準備

掃除用具：草刈機、ほうき、ちりとり、スコップ、ゴミ袋など

水洗浄用具：ブラシ、たわし、バケツ、洗剤、高圧洗浄機など

処理用具：土のう袋、ゴミ袋（厚いもの）など

(3) 除去した土等を敷地内に保管するための場所の確保

3-3. 除染

敷地内において雨樋の出口付近や側溝内の土砂や落葉がたまっている箇所は、放射線量が高いと考えられます。

(1) 土砂の除去

放射線量が高い場所の土砂を取り除きます。

除染によって生じた土砂は、原則として敷地内処理してください。

土ぼこりがたつ所では、水まきするなどし、土ぼこりを吸い込まないようにします。

(2) 草刈・落葉等の除去

草刈だけでも効果がありますが、草を根から取るとさらに効果的です。地表から1～2cmをはぎ取り、根に付着している土はビニール袋などの中で落とします。落とした土は土砂と同じ扱いになります。なお、刈り取った草や剪定枝などは可燃物扱いになります。

(3) 除去後の土砂等の保管方法

① 地中に埋める方法

- ・ 帯水層に達しないよう注意し、保管するための穴を設けます。
 - ・ 穴の底面及び側面には遮水シート等を敷いて、水が地下水に浸透しないようにします。
 - ・ 除去土砂等は、耐水性のある袋等に入れます。
 - ・ 放射性物質がついているおそれが少ない土をかぶせます。
- ※土による遮へい効果は、10cmで74%、15cmで86%、30cmで98%といわれています。

② 山積みにする方法

- ・ 土壌の上に山積みする場合は、その場所にあらかじめ遮水シート等を敷いて水が地下に浸透しないようにします。
- ・ 除去土砂等は耐水性や耐久性のある袋等に入れ、遮水シート等の上におきます。
- ・ 雨水進入防止のため遮水シート等で覆います。

③ 埋めたり山積する方法が不可能な場合

容器等に入れて、敷地内のあまり人が立ち入らない場所へ保管します。

3-4. 作業後

手洗い、うがい、シャワーを浴びるなど、汚れを落とします。

作業着は水洗いをし、汚れが残っているところは入念に洗浄します。

使い捨てのものは、そのまま一般ごみとして廃棄します。

3-5. 再測定

除染前と比べるために放射線量を測定します。

前もって放射線量を敷地内の略図などに記録しておくこと今後の放射線量の監視に役立ちます。

この放射性物質除染作業マニュアルは、平成23年8月26日に国の機関である原子力災害対策本部が作成した「市町村による除染実施ガイドライン」などを参考に策定しています。